

地域の製材工場と上手く連携するために？

Q 当製材組合ではここ5年ぐらい前から本格的に林産事業を展開してきているところですが、販売のメインは隣県の大手合板工場向けのB材で、C材・D材については県内で稼働を始めた木質バイオマスを発電向けに販売を開始しています。そこで課題となっているのがA材の販売です。実は地域内には国産材を挽いている中小の製材工場が5軒ほどあり、こうした地元の製材工場とA材についてより良い取引ができればと考えております。貴組合では地元の多くの製材工場とのA材販売を成功させたと同様ですが、その実践を通じたノウハウについてお聞かせいただければ幸いです。(森林組合参事)

A ■地域材の普及と地域材ネットワークづくり
当組合では合併前から20年近く列状搬出間伐を行ってきています。木材取引では、当初は長野県

森林組合連合会の北信木材センターへの出荷が主となっていました。それは、当組合のある北信地域は、外材受入港である新潟県の直江津港が近いことから、管内の製材工場では外

材の使用が主で、地域材は流通していません。そのためです。当時の北信木材センターでの木材購入者はほとんどが県外業者でした。

平成12年に住宅の品確法が施行されると市売り価格が大幅に下落し、列状搬出間伐を継続していくことが厳しくなってきました。たいへん危機的な状況に陥り、なんとかしなくてはならない、管内の製材工場に搬出材を売れないものかなど、いろいろな思いをめぐらしていました。

そんな時に、県の出先機関の普及職員が、建築士、施工業者、製材業者と森林組合職員を集めて地域材利用についての研修会を開催してくれました。私は当時、旧中野市森林組合で搬出間伐の団地化を担当していました。そして、同様に旧山ノ内町森林組合で団地化を担当していた、堀澤正彦(北信州森林組合業務課長)とともに参加をしました。

このことがきっかけとなり、建築士、施工業者、製材業者と森林組合職員の有志による勉強会を何度か開催し、平成14年4月に「北信州の森林と家をつなぐ会」を設立(同年12月にNPO法人化)しました。これが当管

内での地域材ネットワークの始まりで、この会には製材業者2者が加入しましたが、この業者も会設立当時は外材ばかりを取扱っていました。この会では、家を建てたい人や建てようとしている人を対象に、木のことから、建築に関わる様々なこと、金融のこと、諸手続きのことなど、様々な分野の勉強会を開催しました。また、公共施設建設でもコーディネーター的にかかわり、地域材の普及啓発活動を行いました。

は高まってきました。平成18年頃には、会に参加していない製材業者でも地域材を取扱うようになっていきました。自然と当管内で建築される住宅には、地域材が多く使われるようになっていきました。

■安定供給
地域材を製材し商品化するためには、人工乾燥機の導入などの設備投資が必要になります。こうした設備投資を行うためには、素材の安定供給が必須になります。この安定供給ができるのであれば、製材工場は設備投資することは無いかもしれません。

このため当組合では、集約化部門を設置し個人所有の森林の団地化と森林境界明確化を進め、地域森林を永続管理する基盤整備を行いました。そして、実効性の高い森林経営計画を作成し、搬出間伐を計画的に行いこれに添えています。

NNPO法人北信州の森林と家をつなぐ会概要

メンバー	建築士、施工業者、製材業者、森林組合職員有志
活動内容	家をこれから建てたい人に対して、 ・木のこと、建築に関わる様々なアドバイス ・金融、諸手続のアドバイス ・様々な分野の勉強会 ・公共施設建設のコーディネーター活動

この会の取り組みが多く、マスコミに取り上げられ、そうしたことの継続により管内での地域材の認知度

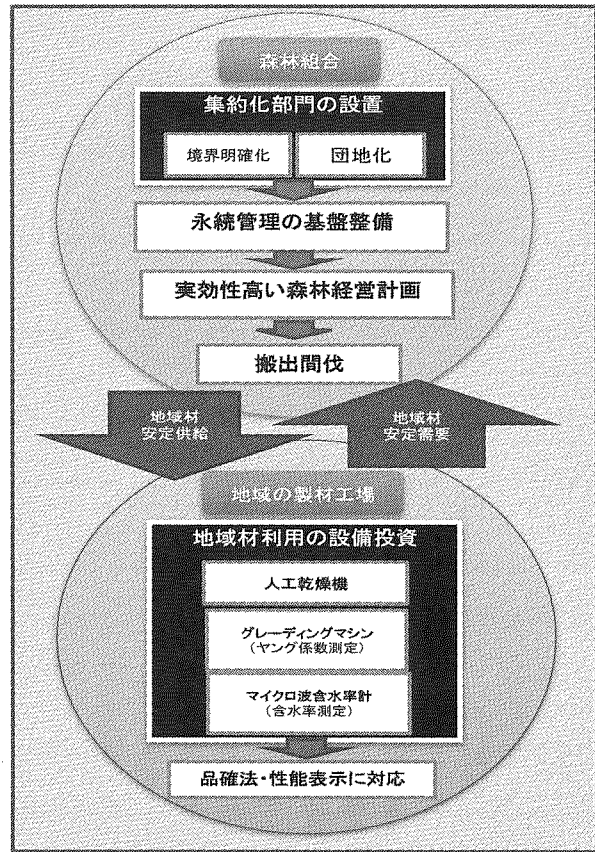
地域の製材工場との取引を可能として
いると思います。

当然、取引を行うには、与信管理を
しっかりやらなければなりません、
その点は信用保証会社などによる調
査も必要と考えています。

しかし、地域の製材工場が設備投

資までして、地域材を主体として製
材してくれていることは、森林組合

にとって大変有り難いことです。製
材工場が無くなってしまった地域で
は、森林組合がそれを担っているこ
とが多いと思いますが、森林組合が
加工を行い健全経営することは、た



森林組合と製材工場の連携ポイント

いへん難しいことであり、大きなリ
スクだと思っています。

こうした意欲的な製材工場があ
り、それと連携して地域の木材流通
ができていることは、森林組合とし
てたいへん良い状況にあると思いま
す。そして、こうした連携ができてい
る背景には、かつて、休日の度に地域
材の普及活動に、共に汗を流してき
たことがあると思います。

今、私達も森林組合の幹部となり、
実際に直接やり取りをしているのは
若手の職員です。そして製材工場も
次世代へと移ってきています。これ
からは、新しい世代が協力して、新し
い何かを築いてくれればと考えてい
ます。

北信州森林組合 総務課長

田中 忠

※このコーナーは、複数の回答者が交代で登壇します。
みなさまからの相談をお待ちしております。